



建築主 福岡県  
設計者 株式会社隈研吾建築都市設計事務所  
代表 隈 研吾  
日本設計・井上・SUEP・産研  
設計業務共同企業体  
施工者 株式会社古賀建設  
代表取締役 古賀康文  
建築物の用途 陶芸工房  
構造・規模(階数) 木造・地上1階

## 設計趣旨

当施設は、長年地元の市民に要望されていた、地域密着型の芸術交流の施設である。そのため、建築自体も筑後地方の文化産業に密着した物であるべきだと考えて地元八女産の杉を主要材料にすることにした。また、敷地は新幹線筑後船小屋駅から見て目立つ位置にあるので、直接公園施設を利用しない人々にまで木の魅力を伝えるべく特徴あるデザインとした。

建築では国産杉材を約195m<sup>3</sup>を利用している。また、家具や建具も含めて徹底的に県産材を使用した。

木造では今までにない持ち送りの梁を三方向展開した架構を採用している。これにより、木造建築の可能性を広げたいと考えた。

## 講評

地域密着型の芸術文化交流施設です。一般にこのような公共建築物は年度単位の工事となるため、木材調達に間に合わず、特に水を多く含む杉の大断面材は乾燥時間が不足し、品質確保が困難となる場合も見られますが、この施設ではふんだんに地域の杉材を使用しています。

本建築物の構造は、三角形に切り取られた集成材をエレメントとして組み合わせた屋根梁、それを支える集成材の柱壁や柱でできています。集成材は2~3cm程度の板を乾燥して接着積層した材料であるため、乾燥も容易で材質のバラツキも少ない点で公共物件の材料に適しています。雨水に曝される集成材には保存処理も施され、木材の耐朽性にも配慮されています。

あらかわしの天井構造や柱壁がユニークな配置で形づくられ、広々とした公園の中の施設にマッチしており、人々を温かく迎えてくれる魅力的な木質化建築物です。